

わる国際協力と支援、ミレニアム開発目標評価年である2015年以降に向けた取り組み等について述べ、議長からは外国人の登録が始まったことについて、賛意が示された。各国とも自国の経験や取り組みなどを共有するとともに、ポスト2015年開発目標として人口移動を取り上げるべきという意見も数多く示された。

本会議と並行して人口移動に関する決議案の非公式協議が続けられ、最終日に採択された。また次回(2014年)の人口開発委員会「ICPD 活動計画の実施状況評価」の議事進行案が承認され、次々回(2015年)の人口開発委員会のテーマを「望む未来を実現する：人口問題を持続可能な開発に統合し、ポスト2015開発アジェンダに組み入れる」とすることが決議され、真夜中12時を越えて会議は終了した。

「国際人口移動と開発」については、今年(2013年)10月、第68期国連総会中に、国連本部においてハイレベル会議が行われる予定である。

来年2014年は1994年カイロ会議(国際人口開発会議：ICPD)から20周年となり、4月の人口開発委員会では上述のようにその評価が行われるが、その後2014年9月22日に、ICPD 行動計画フォローアップの国連総会特別セッションが開催されることが決定されている。

なお、本会合では、PaperSmart 方式、つまり紙を減らし経費を削減する方策がとられ、これまで会場で配布されていた事務局文書、各国ステートメントなどの紙の文書は、Wifi で随時配信され、紙が必要な人は会場内に設けられた印刷コーナーで受け取るようになった。筆者のようにパソコンやタブレットの使用者にとっては大変ありがたいが、例えばキューバはまだ国連総会で採択されていない、とやや反対意見を述べ、隣の席のジャマイカ代表は、パソコンやタブレットがないため不便だ、と言っていた。さらに配信する原稿は国連事務局にEメールで登録する必要があるが、インターネット接続環境が悪い国では、登録ができなかった、という話も聞いた。ペーパーレスにするのも、世界的にはまだ完璧にできるわけではないようである。

(本会合に関する文書類は、

<http://www.un.org/en/development/desa/population/commission/previous-sessions/2013/>
からダウンロードすることができる。)

(林 玲子記)

第6回アジア太平洋人口会議に向けた準備会合

2013年5月8日(水)から10日(金)まで、バンコク国連会議場において、第6回アジア太平洋人口会議に向けた準備会合が開催され、日本政府代表団として筆者および厚生労働省大臣官房国際課より室大輔事務官、在タイ日本国大使館より望月寿信参事官(国際機構部長)が参加した。

アジア太平洋人口会議は1963年の第1回を皮切りに、以後ほぼ10年に1回のペースで行われており、前回第5回は2002年にバンコクで行われたが、2014年に予定されているICPD 行動計画評価会議に対するアジア・太平洋地域の取りまとめ結果を反映するために、第6回アジア太平洋人口会議は2013年9月に行うと、昨年のESCAP 総会にて決議されたところである。今回の準備会合は、今年9月の本会議で採択すべき決議案について、事前に各国の意見採取・調整を行うことを目的に開催された。ESCAP メンバー国53カ国のうち、アフガニスタン、オーストラリア、アゼルバイジャン、バングラデシュ、ブータン、カンボジア、中国、北朝鮮、インド、インドネシア、イラン、日本、ラオス、マレーシア、モルジブ、モンゴル、ミャンマー、ネパール、パキスタン、パプアニューギニア、フィリピン、ロシア、スリランカ、タイ、アメリカ、ヴァヌアツ、ヴェトナムの27カ国、および関連NGO やアジア人口学会などの団体が参加した。

決議文書の当初事務局案では、人口開発の重点分野として①リプロダクティブヘルス、②ジェンダー、③人口高齢化、④青少年、⑤教育、⑥国際人口移動、⑦都市化、⑧人口と環境（持続可能な開発）が列挙され、さらに健康と長寿、貧困削減などが提案された。これら各項目について、さらに詳細に決議案が検討されたが、日本からは、人口高齢化対策、災害時の雇用対策をはじめとした各種施策、人間の安全保障、ユニバーサルヘルスカバレッジ、ICTの活用などについても追加、もしくは強調し、それぞれインドやイラン、中国その他各国から支持を受けた。

当準備会合報告書として各国発言をとりまとめたものが採択され、決議案自体は9月の本会議で最終的に決議されることとなる。

本会合の内容は、国連 ESCAP ウェブサイト
<http://www.unescapsdd.org/population-dynamics/event/regional-preparatory-meeting-sixth-asian-and-pacific-population-conference> に掲載されている。 (林 玲子記)